

上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会 令和4年度第1回総会
議事要旨

日時：令和4年5月27日（金）10：00～11：30

会場：上越市役所 401 会議室

1 開 会

2 挨拶

＜上越市 池田企画政策部長＞

- ・女性の人口動態については、なかなか減少傾向に歯止めがかからない状況にあり、若者に焦点を当てると、25歳から39歳の年齢の男女の人口がこの10年で約3割減となっている。また、婚姻数も3割減、出生数も3割減という状況にあり、若年層の人口動態の減少傾向が強まっている状況。
- ・上越市としても様々な取組を実施しているが、決め手がないというのも一方では実情である。そうした中で、産・官・学・金・労・民に関わる団体の皆さんの力を結集し、総力を挙げて取り組んでいく必要があると思っている。
- ・人口減少を緩和させていくこと、そして地域を持続可能なものとして次の世代に引き継いでいくこと、これに向けて頑張っていく必要があると思っているので、本日ご参加の皆さんからも、多大なるご協力を賜りたいと考えている。

3 出席者紹介

4 議 事

(1) 報告事項

①令和3年度の取組状況について

- ・協議会の活動について
- ・協議会参加団体について
- ・各団体の取組について
→ 事務局から資料1～5に基づき説明を行った。
- ・第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について
→ 事務局から資料6に基づき説明を行った。

- ・ 地方創生推進事業補助金の活用実績について
→ 事務局から資料 7 に基づき説明を行った。
- ・ 協議会事務局が運営するソーシャルメディアについて
→ 事務局から資料 8-1、8-2 に基づき説明を行った。

②令和 4 年度の市の取組について（報告）

- ・ 地方創生推進事業補助金の募集について
- ・ 上越市 PR 映像コンテストの開催について
- ・ 若者まちづくり参画・交流促進事業について
→ 事務局から資料 9-1～11-2 のとおり説明を行った。

※議事「(1) 報告事項」について、原案のとおり了承された。

(2) 協議事項

- ・ 上越市の人口動態について
→ 事務局から資料 12 のとおり説明を行った。

<上越商工会議所 板垣理事・事務局長>

- ・ 18 ページの大卒の初任給が、データ上東京と新潟ではそこまで変わらないということだが、印象としては東京の方が高いので転出してしまわないかと考えているが、どのように読み取ればいいのか。また、電気・ガス・熱供給・水道業が高いのはなぜか。

→ (事務局：伊倉主任)

- ・ 給与については物価の違いを反映しているため、実際の額面上の数字よりも差が縮まっている。また、全ての事業所に聞いているわけではないため、若干数字が前後する可能性はある。電気・ガス・熱供給・水道業については発電所の立地が影響しているのではないかと考えられるが、具体的などころまで把握はしていない。

<上越公共職業安定所 伊藤次長>

- ・ 資料 1-3 上越市の人口動態の推移で H15 年頃から大きく転出、転入が減少しているが原因はどのようなことか。市町村合併が影響しているのか。

→ (事務局：伊倉主任)

- ・移動が活発な15歳～24歳の人口が減少してきたことが要因の一つとして考えられる。市町村合併の影響については確認したい。

・令和4年度の協議会活動について

→ 事務局から資料13のとおり説明を行った。

○意見交換概要

<上越商工会議所 秋山庶務係長>

- ・資料13の今後の協議会活動について、ワーク・ライフ・バランスをテーマに議論していくということだが、団体が集まって議論をすることにした理由は。

→ (事務局：阿部係長)

- ・まず、ワーク・ライフ・バランスをテーマにした理由は、上越市において若者、特に女性に帰ってきていただくことが人口減少に効果的であると考えているため、職場環境の向上を目指すこととしたものである。また、昨年度、情報交換会を開催した際に、30名ほどの方から参加いただいたことから、各団体の皆様の関心の高いテーマだと考えており、テーマは変えずに、民間における具体的な取組などを議論していきたいと考えている。また、団体の参加については、企業の実施している取組を共有することで、より様々な意見が出るのではないかと考えているため、合同部会として開催したいと考えている。

→ (事務局：大島企画政策課長)

- ・実際に活動されている団体の皆様は本業を持ちながら団体の活動をされている方が多くいらっしゃるため、まさにワーク・ライフ・バランスを実践している方々であると考えている。そういう方々から意見を聞くのは面白いのではないかと思う。昨年度も関心が高かったということもあるので、さらに深掘りしていきたいと考えている。

<上越信用金庫 山本副部長>

- ・創業支援ネットワークの会議に参加させていただいた際、首都圏で一定期

間過ごされた女性でUターンを希望されている方や、上越に魅力を感じてIターンを希望されている方に対する創業支援の話が出ていた。また、近隣市にお住まいの女性の方が上越市で創業をされたケースもあった。こうした事例は、上越市における好事例の一つとして、次に繋がっていくのではないかと考えている。ワーク・ライフ・バランスをテーマに議論をしていくことになるが、当行としては、女性に対するワークの部分で貢献できることもあるのではないかと考えている。

<上越公共職業安定所 伊藤次長>

- ・厚生労働省でもワーク・ライフ・バランスは大きな取組課題の一つとなっており、労働行政の分野においても各地域でワーク・ライフ・バランスの推進に積極的に取り組んでいる企業に対して個別の認証をさせていただいている。こうした企業の取組を学ぶ方法も考えられるのではないかと。

<連合新潟上越地域協議会 高橋事務局長>

- ・連合では、ワーク・ライフ・バランスを広く認識してもらうために研修会などを開催している。
- ・企業には、4年前くらいから海外から技能実習生を受け入れてもらっている。新型コロナウイルス感染症の影響により、既に帰国されている実習生が多い一方、新たな実習生が入国できないため、労働力不足となっている企業が多くなっている。そのため、労働力不足の解消に向けて、女性から第一線で活躍してもえるよう、環境づくりをしている企業が増えている。その中で半導体企業において深夜業務に及ぶ場合に、育児・子育てと仕事をどう両立させるかが課題となっている。家族の協力も前提となるが、例えば、首都圏で実施しているベビーシッター制度のようなものを要望されることもある。
- ・女性の仕事と子育てが両立できるような環境整備を目指していきたいと考えている。

<上越商工会議所 秋山庶務係長>

- ・上越市の共働き率をまとめたデータはあるか。
→（事務局：内山副課長）
- ・確認させていただく。

<上越教育大学 渡邊特命課長>

- ・当大学でもワーク・ライフ・バランスについて、女性は育児休業を取得し

ているが、男性はまだまだというのが現状である。男性も当たり前育児休業を取得するようになれば、悩みを共有し、夫婦でバランスをとりながら子育てできる環境が整うのではないかと考えている。企業においても、ワーク・ライフ・バランスをどのように推進していけばよいか分からないということもあると思うので、部会の中で成功事例を共有することやできる取組の議論を深めることは有意義であると考えている。

※議事「(2) 協議事項」の「令和4年度の協議会活動」について、原案のとおり了承された。

5 閉 会